

Title	在タイ日本人社会生活調査
Sub Title	A survey of Japanese residents in Thailand
Author	クントン, インタラタイ
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1991
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.83, No.特別号-II (1991. 3) ,p.72- 85
JaLC DOI	10.14991/001.19910301-0072
Abstract	
Notes	矢内原勝教授退任記念論文集：発展途上経済：アフリカ・アジア
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19910301-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

在タイ日本人社会生活調査

クントン・インタラタイ

1. 調査の背景

この2～3年の間に、タイの経済発展が世界の中でも注目されてきた。つまり、3年連続して経済成長率が10%で、日本の高度成長時代と同じようなペースになっている。もしそのままの成長率が維持されれば、近いうちに新しくアジア NIES になるであろう。

なぜタイ経済が最近世界一流の伸び率を示すこととなったのか、多くの学者達が関心をもつであろう。恐らくその原因の一つは、外国の資本がタイに押し寄せてきたことであろう。中でも日本の資本の占めている割合が第1位である。なぜ日本の資本は他のアジアの国々よりもタイにいくのであろうか。基本的な経済の利益よりも、人間交流の在り方が大きなインパクトを与えていると言うのが、私の見解である。なぜ日本人はタイへ行くのか、具体的な調査が必要であろう。

ちょうど1989年度、私はサバティカルをとってタイのチュラロンコン大学のアジア研究所で研究していた。私の学問的な興味に基づいて、在タイ日本人社会生活調査のテーマを選んだ。現在、3万人の日本人がタイに居るといった情報があった。彼らはどういうふうに住んでいるのだろうか、或いはタイ社会に対してどのような意見を持っているのか、前例となる調査はなかった。この調査は日タイ関係の視点だけではなくて、日本人論にも貢献できるであろう。

この調査は1990年2月に行われた。日本人協会の名簿（List of Members : Japanese Association in Thailand As of 15th June 1988）から2千人の対象者を選んでアンケート表を郵送した。2週間のうちに408名（約2割）から解答があった。その解答の結果は次の通りである。

2. 解答日本人の内訳

まず性別で見ると、男性97.3%、女性2.7%が解答した。この調査は男性の意見であると言ってよい。日本人はどこに行っても男性の社会であることが確認される。

対象者の平均年齢が44歳であった。日本の社会の中では働き盛りと言われる年齢である。彼らの意見は、日タイ関係の将来のために大きな意味をもつであろう。

出身地を尋ねると、関東出身者が全体の46.1%、関西出身者が16.2%を占めていた。関東・関西合わせて全体の6割以上を構成し

表1 「出身地(県)」

ている(表1参照)。こういう統計を見ると在タイ日本人は圧倒的に大都会周辺の人々である。もしタイ政府が日本人にもっと協力を求めるならば、大都会の精神を以って対処しなければならないことがうかがえる。

番号	回 答 項 目	回 答	%
1	東京	96	23.9
2	関東(東京以外)	89	22.2
3	大阪	28	7.0
4	関西(大阪以外)	37	9.2
5	北海道	9	2.2
6	東北	19	4.7
7	四国	7	1.7
8	中国	20	5.0
9	九州	35	8.7
10	日本海(北海道・東北・九州以外)	15	3.7
11	東海道	46	11.5
	合 計	401	100.00

職業別に見ると、商業(36.2%)、工業(34.1%)、専門家(9.8%)、役人(3.4%)、金融(2.3%)、その

他(12.4%)の順となっている。つまり、商業と工業が約7割を占めており、日本のビジネスマンがタイの経済活動に多く貢献していることがわかる。

役職については、マネージャー(25.3%)、社長クラス取締役(24.3%)、ディレクター(11.6%)、部長(10.8%)、社長(10.1%)、技術者(テクニシャン)・役人(9.3%)の順となっている(表2参照)。

表2 「役 職 名」

番号	回 答 項 目	回 答	%
1	マネージャー	98	25.3
2	社長	39	10.1
3	社長クラス取締役	94	24.3
4	技術者(テクニシャン)・役人	36	9.3
5	ディレクター	45	11.6
6	一般従業員	7	1.8
7	主婦	1	0.26
8	部長	42	10.8
9	工場長	10	2.6
10	課長	13	3.4
11	大学教授	1	0.26
12	教師	1	0.26
	合 計	387	100.00

こういう役職名を見るとそれが決定権をもつ人々であることがわかる。彼ら響をもつに意見は、ビジネスの政策に大きな影でない。しかし、この調査の結果では、一般の日本人従業員の意見はつかみにくいと思われる。

解答者は平均5.8年タイに滞在していた。中には数十年間タイに住んでいて、しばしば日本との間を往復している人もいる。6年近くタイに住んでいると、タイの社会のしくみが割合にわかるであろう。

3. 生活パターン

ほとんどの日本人はバンコクに住んでいるが、中でも67.3%の日本人がスクムビット通りに住んでいる。他の通りは非常に少ない(表3参照)。日本人の集団思考が再確認された。恐らく、安全上・便利上そして仲間意識の強さが理由となって、スクムビットに住むことを選んだのであろう。

住んでいる所は、コンドミニアム或いはマンション(80.0%), 賃貸一軒家(9.0%), 持ち家(6.3%), その他(4.8%)の順である。日本人は一軒家よりもマンションに住んでいることがわかる。

日本人が集中的に住んでいるために、月額家賃は平均28,581バーツ(1バーツ=6円とすれば約17万円)にのぼっている。タイの物価は安いにもかかわらず、日本で払う家賃よりも高い。中には50,000バーツぐらい払っている人も少なくない。住む場所は在タイ日本人が悩んでいる問題の一つである。

「タイで払う家賃はどうか」と尋ねると、「高い」と答えた人が65.5%で、「普通」が28.2%、「安い」が6.3%であった。住宅の需要と供給で見ると、これからも家賃はさらに高くなると予測される。しかし、もし日本人がスクムビット通り以外を選んだら、住宅の問題は解消することもあり得るであろう。スクムビット通りでは不動産屋はインド系のタイ人が多い。

メイドさんの人数を尋ねてみると、平均して1.04人を雇っている。1人のメイドを雇っているのが90.3%、2人が4.7%、3人以上が1.4%である。現在の日本の社会では、メイドさんを雇うことは不可能に近いが、海外で生活すると、上流階級意識が強くあらわれることがわかる。そしてその上に、運転手をもっているのが普通である。

メイドさんの月給の平均は2,474バーツである。4～5年前と比べて2倍に増えている。最近ではメイドさんを探すことが段々難しくなっているが、それにはタイ人の意識の変化も影響している。

「どこで買い物をするのか」と聞くと、「デパート」(52.8%)、「市場」(29.7%)、「日本人の店」(17.6%)の順であった。日本人は質の良い製品をデパートで買いたいのである。しかし、食料品などは日本人の店で買うことが多い。

「病気の時、どこの病院に行くか」と尋ねると、「日本語が通じる病院で診てもらおう」と答えた人が85.8%あった。高くても私立病院、特に日本語の通じる病院を選んでいる。

「あなたは普段どんな銀行を使うか」と尋ねると、「日本の銀行」(63.8%)、「タイの銀行」(36.2%)の答えがあった。日本人のナショナリズムを再確認した。

表3 「住んでいる通りの名前」

番号	回答項目	回答	%
1	スクムビット	268	67.3
2	ベッチブリ	6	1.5
3	ブレンチット	17	4.3
4	バンナートラッド	3	0.75
5	ラチャダンリ	15	3.7
6	タンヤブリ	1	0.25
7	ラーマー1	1	0.25
8	ウィッタユ	2	0.5
9	クロントイ	5	1.25
10	シーロム	17	4.3
11	ランナム	1	0.25
12	ラーマー4	3	0.75
13	サートン	8	2.0
14	パティパット	1	0.25
15	サラデン	4	1.0
16	パホンヨティン	5	1.25
17	ホウマク	1	0.25
18	エカマエ	8	2.0
19	デージョー	1	0.25
20	ランスアン	6	1.5
21	チュンマイ	1	0.25
22	チャランサントウォン	2	0.5
23	ウィパワディ ランシット	2	0.5
24	その他	20	5.0
	合計	398	100.00

「あなたの奥さんは職業をもっているか」と尋ねると、「専業主婦」(80.3%)、「ボランティア」(8.3%)、「フルタイムで仕事」(6.3%)、「パート」(5.3%)という答えが得られた。タイに住んでも、日本の女性の生き方はそれほど変わらないことがわかる。

4. タイ人との付き合い

「タイに来てからはじめてタイレストランに行ったのはいつか」という問いに対して、2.2日以内と答えた人が89.8%で、1.1週以内が9.0%、そして2.75月以内が1.2%であった。平均1カ月に9.1回タイのレストランで食事をする。日本人がタイのレストランに対して興味をもっていることがわかる。

「タイ料理をどう思うか」という問いに対しては、「おいしい」(68.9%)、「普通」(28.9%)、「おいしくない」(2.2%)の順となっている。日本人はタイ料理が好きであることが表われている。

タイ人の親友の数を尋ねると、平均が14.0人という答えが得られた。しかし、この答えはあくまで主観的なものである。100人と答えたり、0人と答えた人もいる。

タイ人との付き合いについては、「付き合いやすい」(43.3%)、「普通」(49.8%)、「付き合いにくい」(6.9%)の順であった。この答えを見ると、日本人とタイ人は割合にうまく付き合っていることがわかる。

「タイ語をどのくらい話せるのか」と尋ねると、「よく話せる」(28.3%)、「少し話せる」(59.8%)、「ほとんど話せない」(11.9%)の順であった。この統計を見ると、日本人とタイ人の言葉上のコミュニケーションは思い通りにいかないだろうということがわかる。言葉の壁によって様々な誤解も生じるだろう。

5. タイでの生活

「タイでの生活はどうか」と尋ねると、「好き」(61.4%)、「普通」(32.7%)、「好きではない」(5.9%)の順であった。日本の社会とタイの社会は様々な面で異なっても、日本人はタイでの生活を非常に好ましいと思っているということが予想以上に表われた。逆に日本に住んでいるタイ人が日本の社会に対してどのように感じているかを調査してみることも興味深いテーマであろう。

「なぜタイでの生活が好ましいのか」とさらに詳しく尋ねてみると、「タイ人が好き」(38.5%)、「物価が安い」(27.5%)、「気候がよい」(25.4%)、「住みやすい」(15.6%)、「タイの社会が好き」(15.2%)、「快適」(7.4%)などの答えがみられた(表4参照)。この答えの中で「タイ人が好き」という答えが、非常に大きいシェアをもっている。恐らく、タイ人の柔軟性、解放的な気持ち、友情そして楽観的な気性が、外国人に魅力を与えるのだろう。経済協力、特にビジネスマンの判断材料には、経済政策よりも人と人の交流が大きいウェイトを占めると考えられる。経済政策は突然変わる

表4 「タイでの生活を“好き”と答えた理由」

番号	回 答 項 目	回答1	回答2	回答3	合 計	%*
1	気候がよい	46	14	2	62	25.4
2	くだものがおいしい・豊富	1	4	1	6	2.5
3	タイ人が好き	52	28	14	94	38.5
4	仕事がおもしろい（責任のある仕事を与えられる）	6	3	5	14	5.7
5	タイの社会が好き（リラックスできる・気楽である）	37	6	2	45	15.2
6	柔軟性のある考え方	4	0	1	5	2.0
7	全国のバランス（大都会と地方）	1	2	0	3	1.2
8	物価が安い	38	25	4	67	27.5
9	快 適	5	6	7	18	7.4
10	活気がある	2	2	0	4	1.6
11	気 楽	2	1	1	4	1.6
12	治安がいい	1	6	1	8	3.3
13	仏教が好き	3	3	3	9	3.7
14	遊ぶ所が多い（観光地など）	0	0	0	0	0.0
15	住みやすい	21	12	5	48	15.6
16	仕事があること	1	1	0	2	0.8
17	ゴルフなどが楽しい	2	4	5	11	4.5
18	タイ料理がおいしい	7	10	4	21	8.6
19	総合で	6	0	0	6	2.5
20	国際的な雰囲気	2	1	0	3	1.2
21	日本と生活パターンが似ている	3	3	0	6	2.5
22	政治が安定している	0	3	0	3	1.2
23	その他	4	6	4	14	5.7
	合 計	244	140	59	433	100.00

* 合計を回答の合計数で割った%

表5 「タイでの生活を“好きでない”と答えた理由」

番号	回 答 項 目	回答1	回答2	回答3	合 計	%
1	暑い	11	1	1	13	43.3
2	汚い・不潔	2	7	0	9	30.0
3	やかましい	1	2	1	4	13.3
4	空気が汚れている	3	4	1	8	26.7
5	金持ち優先	2	0	2	4	13.3
6	交通問題	6	1	1	8	26.7
7	社会制度が悪い	1	0	0	1	3.3
8	刺激が少ない	0	2	1	3	10.0
9	タイ人の問題	3	1	1	5	16.7
10	その他	1	0	0	1	3.3
	合 計	30	18	8	56	100.00

こともあり得るが、国民性は長い間それぞれの文化に基づいて構成されており、簡単には変わらないであろう。タイ人と日本人の間になど様々な問題があっても、長期的によく付き合うことができると思われる。

表 6 「タイ社会の欠点」

番号	回 答 項 目	回答 1	回答 2	回答 3	合 計	%
1	交通渋滞の問題	79	28	22	129	34.5
2	環境問題（空気汚染）	15	38	12	65	17.4
3	バンコクにすべてが集中しすぎ	1	1	1	3	0.8
4	貧富の差が激しい	38	39	24	101	27.0
5	医療問題	3	3	2	8	2.1
6	役人のワイロ（役人の道徳低下）	41	27	29	97	25.9
7	約束を守らない	29	10	8	47	12.6
8	ゴミなどで汚れた街	0	5	2	7	1.9
9	タイ人の問題（個人主義・自己中心など）	35	39	17	91	24.3
10	社会的認識が足りない	6	6	5	17	4.5
11	秩序を守らない	16	13	12	41	11.0
12	教育の程度が低い	5	11	7	23	6.1
13	責任感がない	17	13	7	37	9.9
14	階級的な社会	8	5	9	22	5.9
15	税制問題	3	8	6	17	4.5
16	上司が部下に教えない	2	2	0	4	1.1
17	計画性がない	16	5	11	32	8.6
18	組織がない	3	5	5	13	3.5
19	バンコクと地方の格差が大きい	3	6	3	12	3.2
20	うそつき	2	0	1	3	0.8
21	外人をだます（高い値段を要求する）	3	2	4	9	2.4
22	ぜいたく	0	1	3	4	1.1
23	タイの将来への意識が足りない	4	2	2	8	2.1
24	マナーがルーズ	5	5	5	15	4.0
25	努力が足りない	0	5	7	12	3.2
26	公共施設（インフラ）が足りない	18	21	7	46	12.3
27	家賃などの物価が高い	1	4	6	11	2.9
28	効率が悪い	0	2	4	6	1.6
29	不潔	5	6	5	16	4.3
30	物の品質が悪い	0	0	2	2	0.5
31	治安が悪い	7	10	9	26	7.0
32	緑が足りない	0	0	1	1	0.27
33	仕事とプライベートの区別がない	0	0	2	2	0.5
34	技術者が足りない	0	2	2	4	1.1
35	英語が通じない	0	2	2	4	1.1
36	率直に話せない	9	3	4	16	4.3
37	外国人をバカにする	0	2	0	2	0.5
38	その他	0	0	2	2	0.5
	合 計	374	331	250	955	100.00

逆に「タイの生活が好きではない」と答えた人の理由は、「暑い」(43.3%)、「汚い・不潔」(30.0%)、「空気が汚れている」(26.7%)、「交通問題」(26.7%)、「タイ人の問題」(16.7%)などがみられた(表5参照)。しかし、この項目に答えた人は僅か30名であって、代表的な意見であるかどうか、疑問をもつ。

次の質問は、大人ではなく対象者の子どもに「タイでの生活はどうか」を尋ねたものである。そ

れによると「好き」(36.3%)、「普通」(53.7%)、「好きではない」(10.0%)という結果が得られた。日本人の子どもは大人ほどタイの社会を好まないことがわかった。恐らく、タイの子どもと遊ばないことが大きい原因の一つとみられる。または、日本を離れて、日本のテレビ番組などの興味をもつものが届いていないことにも、関係があるであろう。もう一つは、日本の子どもは、日本に住んでもどこに住んでも、いっしょうけんめい勉強しなければならないという事実も、少年たちの不満の原因となり得ると考えられる。

6. タイの社会について

「タイ社会の欠点と思われるものは何か」と(3点まで答えられるという条件で)尋ねると、「交通渋滞の問題」(34.5%)、「貧富の差が激しい」(27.0%)、「役人の賄賂(役人の道徳低下)」(25.9%)、「タイ人の問題(個人主義・自己中心など)」(24.3%)、「環境問題(空気汚染)」(17.4%)、「約束を守らない」(12.6%)、「公共施設(インフラ)が足りない」(12.3%)、「秩序を守らない」(11.0%)、「責任感がない」(9.9%)、「計画性がない」(8.6%)などの順で答えが得られた(表6参照)。

「タイ社会の将来についてどう思うか」と(3点まで答えられるという条件で)聞くと、「明るい・うまくいく・将来性がある」(75.8%)、「貧富の格差が広がる」(16.1%)、「もっと混乱した社会になる」(5.3%)、「工業国家になる」(5.0%)などの答えが得られた(表7参照)。この答えを見ると、日本人はタイに対して明るい将来を予測していることがわかる。諸問題を解決できれば、日本とタイはさ

表7 「タイ社会の将来について」

番号	回 答 項 目	回答1	回答2	合 計	%
1	明るい・うまくいく・将来性がある	269	4	273	75.8
2	成長率が速すぎる	11	4	15	4.2
3	工業国家になる	13	5	18	5.0
4	貧富の格差が広がる	28	30	58	16.1
5	日本の悪いところをまねする	1	1	2	0.6
6	ある程度にしか発展しない	6	1	7	1.9
7	国際社会からは認められない	2	0	2	0.6
8	労働不足に直面する	1	4	5	1.4
9	西洋化する	3	2	5	1.4
10	交通がさらに悪くなる	2	3	5	1.4
11	環境が悪くなる	4	3	7	1.9
12	国民がもっと働くようになる	3	5	8	2.2
13	インフレが悪化する	1	4	5	1.4
14	もっと混乱した社会になる	4	15	19	5.3
15	将来性がない	2	4	6	1.7
16	インフラ(公共施設)を充実しなければならない	3	8	11	3.1
17	日本に依存する程度が高くなる	2	0	2	0.6
18	バンコクと地方の差が大きくなる	5	8	13	3.8
	合 計	360	101	461	100.00

らに大きな規模で協力できる。

「タイの労働者に対してどう思うか」と聞くと、「勤勉」(40.6%)、「普通」(54.2%)、「怠け者」(5.3%)という答えが得られた。割合に日本人はタイの労働者を評価しているということがわかった。

「タイ労働者の問題点はどこにあると思うか」と聞くと、「自主性・自発性の不足」(25.6%)、「責任感がない」(12.3%)、「労働意欲がない」(12.0%)、「会社などの全体・構成への理解が低い」(11.0%)、「チームワーク精神がない」(8.2%)、「すぐに転職する(Job hopping)」(7.6%)、「教育制度の問題」(6.9%)などの順で、答えが得られた(表8参照)。この答えを見ると、日本の労働者の精神と他の国との違いが明らかである。

表 8 「タイ労働者の問題点」

番号	回 答 項 目	回答 1	回答 2	回答 3	合 計	%
1	経験不足	18	0	0	18	5.7
2	自主性・自発性の不足	73	7	1	81	25.6
3	なまけもの	11	5	1	17	5.4
4	会社などの全体・構成への理解が低い	26	9	0	35	11.0
5	うそつき	1	1	0	2	0.6
6	盗み	1	1	0	2	0.6
7	金銭意欲が強い	6	2	2	10	3.2
8	すぐに転職する (Job Hopping)	21	2	1	24	7.6
9	労働意欲がない	27	8	3	38	12.0
10	チームワーク精神がない	18	7	1	26	8.2
11	責任感がない	28	10	1	39	12.3
12	賃金が低い (効率が悪い)	15	3	0	18	5.7
13	部下に教えない	5	5	0	10	3.2
14	プライベートと仕事の区別がない	4	0	1	5	1.6
15	エンジニアや、経営者が足りない	13	3	1	17	5.4
16	上司の態度が問題	11	0	0	11	3.5
17	労働組織が弱い	4	0	0	4	1.3
18	労働条件が悪い	2	2	0	4	1.3
19	プロモーションの問題	4	0	1	5	1.6
20	教育制度	19	3	0	22	6.9
21	自分の意見を述べない	5	1	0	6	1.9
22	その他	5	1	0	6	1.9
	合 計	317	70	13	390	100.00

「あなたと一緒に仕事をしている経営者をどう思うか」と尋ねると、「フェア」(46.4%)、「普通」(48.7%)、「フェアでない」(4.8%)という答えが得られた。日本人は、タイ人経営者を評価していることがわかる。

「タイの役人はあなたにどのくらい協力的か」と尋ねると、「協力的」(21.3%)、「普通」(65.6%)、「非協力的」(13.1%)という答えが得られた。この答えを見ると、どちらかという日本人は、タイの役人に対してそれほど良い印象をもっていないことがわかる。

さらに「あなたはタイの役人にワイロを取られたことがあるか」と尋ねると、「ある」(69.5%)、

「ない」(30.5%)であった。タイの社会においては、ワイロの問題がシビアであることがわかった。まじめな日本の役人と比べて、タイで活躍する日本のビジネスマンは、タイのワイロによって非常に悩んでいる。タイではどんなビジネスの活動をして、タイの官僚が関与している。大きいプロジェクトを決めるには、政治家の個人の利益につながるのが一般的である。それより収賄がタイ社会発展或いは日タイ交流の大きな壁となっているに違いない。

「あなたのお子さんに教育上の問題があるか」と尋ねると、「ある」(55.7%)、「ない」(44.3%)であった。「ない」と答えた人の中には子どもがいない或いはタイに子どもを連れて行っていない人々も含まれている。日本の子どもは、バンコクにある日本人学校に通っているか、また一部はインターナショナルスクールに通っている。

「あなたのお子さんの教育上の問題点は何か」と尋ねると、「日本人の高等学校を造って欲しい(現在、タイ政府は中学校までしか認めていない)」(27.6%)、「治安の良い遊び場所」(12.4%)、「インターナショナルスクールを造って欲しい」(12.4%)、「教育の考え方の問題」(10.5%)、「塾を許可する」(10.5%)、「タイ政府が日本人学校設立にもっと協力して欲しい」(10.5%)、「日本人のための大学設立」(7.6%)などの順となっている(表9参照)。総体的に見ると、親の心配は子どもの進学について

表9 「子供の教育に関するタイ政府への要望」

番号	回 答 項 目	回答1	回答2	合 計	%
1	治安の良い遊び場所	13	0	13	12.4
2	進学問題	4	1	5	4.8
3	子供の考え方の問題	3	3	6	5.7
4	教育の考え方の問題	10	1	11	10.5
5	日本人高等学校をつくってほしい	26	3	29	27.6
6	子供の遊ぶ場所を増やしてほしい	1	0	1	1.0
7	タイの子供と遊ぶ機会がほしい	2	0	2	1.9
8	塾を許可する	8	3	11	10.5
9	子供の VISA	1	0	1	1.0
10	保育園をふやす	1	0	1	1.0
11	タイ語の授業の時間をふやす	2	0	2	1.9
12	日本との交流	1	0	1	1.0
13	日本人をタイの学校へ入れる	5	0	5	4.8
14	もっとインターナショナル・スクールをつくってほしい	11	2	13	12.4
15	タイ政府が日本人学校にもっと協力してほしい	10	1	11	10.5
16	日本人教師 (Work Permit) をふやしてほしい	2	0	2	1.9
17	日本人のための大学の設立	4	4	8	7.6
18	その他	1	0	1	1.0
	合 計	105	18	123	100.00

てである。現在では日本人向けの高等学校がないので、中学校を卒業すると日本の高等学校へ行くために帰国するか、タイのインターナショナルスクールに行くか、納得できない選択をしなければならぬ。高等学校を認めないことは、タイ政府の政策に絡んでいる。タイ政府は、日本からの投資を期待すれば、経済政策だけでなく総合的な政策を配慮しなければならない。

7. 娯 楽

「タイ国内でよく旅行する場所はどこか」と尋ねると、「パタヤ」(46.8%), 「チェンマイ」(21.6%), 「ホヒン」(13.1%), 「プーケット」(12.4%), 「ラヨン」(8.1%)などの順番で答えが得られた(表10参照)。つまり、車で2～3時間で行ける場所である。

表 10 「タイ国内でよく旅行する場所」

番号	回 答 項 目	回答1	回答2	合 計	%
1	バンコク周辺	11	0	11	3.9
2	パタヤ	118	14	132	46.8
3	ラヨン	15	8	23	8.1
4	チェンマイ	37	24	61	21.6
5	コンケン	4	4	8	2.8
6	海岸	14	1	15	5.3
7	スコタイ	4	1	5	1.8
8	ゴ・サムイ	2	0	2	0.7
9	ホヒン	19	17	36	13.1
10	ガンチャナブリ	7	3	10	3.5
11	プーケット	20	15	35	12.4
12	アユタヤ	16	6	22	7.8
13	ビマイ	0	1	1	0.4
14	チュンライ	2	3	5	1.8
15	ゴ・サメト	2	0	2	0.7
16	ヒンロンクラ	1	0	1	0.4
17	チャアム	8	2	10	3.5
18	ローズガーデン	0	1	1	0.4
19	カウヤイ	2	1	3	1.1
	合 計	282	101	383	100.00

「タイで一番いい観光地はどこか」と尋ねると、「プーケット」(50.0%), 「チェンマイ」(15.9%), 「スコタイ」(8.1%), 「ホヒン」(7.4%), 「ゴムサイ」(5.7%)であった(表11参照)。チェンマイはいずれにおいても2番である。この答えをみると、日本人は古い町或いは海が好きであることがわかる(表11参照)。

「タイの農村に泊ったことがあるか」と尋ねると、「ある」(22.75%), 「ない」(77.25%)であった。泊ったことがある人は、平均8.4日間泊ったという答えが見い出された。在タイ日本人が、タイのいなかの経験に乏しいことがわかる。それ故、何年タイに住んでもタイ全体の社会の構造もよく理解できないであろう。

「日本への帰国の回数はどれくらいか」と尋ねると、「年に1.9回」(71.25%), 「2.7年に1回」(28.7%)という答えがあった。日本に帰る回数が、かなり頻繁であることがわかる。

「タイのテレビ番組を普段観るか」と尋ねると、「観る」(43%), 「観ない」(57%)であった。テレビを観なければ、タイの社会はそれほど理解できないであろうと思われる。

表 11 「タイでいちばんいい観光地」

番号	回 答 項 目	回答 1	回答 2	合 計	%
1	チャム	5	2	7	2.4
2	ブーケット	145	3	148	50.0
3	チェンマイ	38	9	47	15.9
4	ガンチャナブリ	3	0	3	1.0
5	ホヒン	18	4	22	7.4
6	ターク	0	1	1	0.3
7	バンガ湾	3	1	4	1.4
8	スコタイ	18	6	24	8.1
9	ゴ・サムイ	13	4	17	5.7
10	パタヤ	5	1	6	2.0
11	ラヨン	7	3	10	3.4
12	ガビー	3	0	3	1.0
13	ヤラー	1	1	2	0.7
14	ピマイ	1	0	1	0.3
15	カオヤイ	8	0	8	2.7
16	メホンソン	1	0	1	0.3
17	チェンライ	7	1	8	2.7
18	バンコク	10	1	11	3.7
19	ソンクラ	1	0	1	0.3
20	ピーピー (PP) 島	3	2	5	1.7
21	アユタヤ	5	0	5	1.7
22	ガラシン	1	0	1	0.3
23	ブリラム	0	1	1	0.3
	合 計	296	40	336	100.00

表 12 「“観る” と答えた人のよく観る番組」

番号	回 答 項 目	回答 1	回答 2	合 計	%
1	スポーツ	34	10	44	27.5
2	ドラマ	5	13	18	11.2
3	ニュース	112	21	133	83.1
4	クイズ	5	4	9	5.6
5	経済などのドキュメント	1	0	1	0.6
6	政治社会の番組	1	3	4	2.5
7	歌・音楽	2	3	5	3.1
	合 計	160	54	214	100.00

「観ると答えた人はどんな番組をよく観るか」と尋ねると、「ニュース」(83.1%)、「スポーツ」(27.5%)、「ドラマ」(11.2%)、「クイズ」(5.6%)などの順番であった。しかし経済などのドキュメントは、僅か0.6%しか占めていない。恐らく言葉の障害があり得るのであろう(表12参照)。

「普段どんなスポーツをするか」と尋ねると、「ゴルフ」(87.1%)、「水泳」(21.8%)、「テニス」(20.0%)などの順になっていた。ゴルフという答えが圧倒的に多い。日本人は日本にいる時と外国にいる時の意識が異なることが明らかとなっている(表13参照)。

表 13 「普段するスポーツ」

番号	回 答 項 目	回答 1	回答 2	合 計	%
1	ボーリング	4	1	5	1.4
2	ゴルフ	302	14	316	87.1
3	水泳	23	56	79	21.8
4	トレッキング (山登り)	1	0	1	0.3
5	歩く	6	2	8	2.2
6	テニス	21	50	71	20.0
7	ピンポン	1	3	4	1.1
8	体操	0	3	3	0.8
9	バトミントン	0	4	4	1.1
10	サッカー	1	1	2	0.6
11	エアロビクス・ダンス	1	3	4	1.1
12	ジョギング	0	8	8	2.2
13	モーターサイクリング	1	0	1	0.3
14	ソフトボール	0	1	1	0.3
15	空手	1	0	1	0.3
16	ラグビー	1	1	2	0.6
	合 計	363	47	410	100.00

「タイのお寺で説教を聞いたことがあるか」と尋ねると、「ある」(26.75%), 「ない」(73.25%)であった。

「タイの仏教に対して興味があるか」という問いに対しては、「ある」(40.0%), 「普通」(48.1%), 「ない」(17.9%)という答えがあった。

「老後をタイで暮らしたいか」という質問に対しては、「暮らしたい」(49.1%), 「暮らしたくない」(50.9%)という答えがあった。予想以上にタイで暮らしたい人が多いことがわかる。

「なぜタイで暮らしたいか」と尋ねると、「物価が安い」(30.3%), 「タイの気候が好き」(28.5%),

表 14 「暮らしたい」と答えた理由

番号	回 答 項 目	回答 1	回答 2	合 計	%
1	タイが好き	17	3	20	12.1
2	タイ社会をもっと知りたい	5	0	5	3.0
3	のんびりできるから	25	9	34	14.5
4	もっと仕事をしたい	2	0	2	1.2
5	物価が安い	38	12	50	30.3
6	タイ人が好き	22	12	34	20.6
7	タイの社会の役に立ちたい	1	0	1	0.6
8	タイの自然が好き	2	3	5	3.0
9	タイの気候が好き	32	15	47	28.5
10	日本より生活しやすい	18	9	27	16.4
11	タイの地方が好き	2	0	2	1.2
12	日本とタイの生活パターンが似ている	0	2	2	1.2
13	タイ料理が好き	1	1	2	1.2
	合 計	165	66	233	100.00

「タイ人が好き」(20.6%)、「日本より生活しやすい」(16.4%)、「のんびりできるから」(14.5%)、「タイが好き」(12.1%)などの順になっている(表14参照)。

そして最後に「タイに居て日本の何が最もなつかしく思い出されるか」と尋ねたところ「四季」(55.5%)、「親戚・友人」(34.7%)、「日本料理」(34.2%)、「日本の自然」(18.6%)、「生活習慣」(6.6%)、「温泉」(5.7%)、「テレビ」(5.7%)、「電車」(5.7%)などの順で答えが得られた(表15参照)。この答えを見ると、日本の寒い国とタイの暑い国の違いによって日本人の意識に影響を与えていることがわかる。恐らく、日本の生活伝統或いは近代化は、どこに行っても日本人の心に残っているのであろう。

表 15 「タイに居てなつかしく思う日本のもの」

番号	回 答 項 目	回答1	回答2	回答3	合 計	%
1	四季	152	44	7	203	55.5
2	新幹線	0	1	0	1	0.3
3	富士山	0	0	1	1	0.3
4	冬のスポーツ	4	4	0	8	2.2
5	親戚・友人	64	42	21	127	34.7
6	日本料理	52	49	24	125	34.2
7	日本の自然	19	36	13	68	18.6
8	故郷	7	7	3	17	4.6
9	道路	6	7	2	15	4.1
10	電車	7	9	5	21	5.7
11	日本の女性	1	0	2	3	0.8
12	テレビ	3	12	6	21	5.7
13	会社	0	0	3	3	0.8
14	生活習慣	7	6	11	24	6.6
15	正月	10	7	1	18	4.9
16	風呂	2	0	2	4	1.1
17	温泉	6	9	6	21	5.7
18	スポーツクラブ	1	1	2	4	1.1
19	雪	4	8	2	14	3.8
20	古い寺	2	0	1	3	0.8
21	酒場	1	1	3	5	1.4
22	ハイセンスファッション(品の良い物)	1	2	4	7	1.9
23	飲料水	2	3	1	6	1.6
24	文化など伝統芸能	4	6	8	18	4.9
25	プロ野球	2	3	2	7	1.9
26	お祭り	1	4	0	5	1.4
27	効率的なこと	0	0	2	2	0.5
28	映画	0	0	0	0	0
29	日本の都市	0	0	2	2	0.5
30	治安がよい	2	2	1	5	1.4
31	本	3	4	2	9	2.5
32	日本人の心	3	4	2	9	2.5
	無回答・無効回答など	43	138	270	43	—
	合 計	366	271	139	776	—

8. ま と め

この調査でわかったことは次の通りである。

- (1) 在タイ日本人は、タイの社会に対して予想以上に評価が高かった。
- (2) 日本人の目から見ると、タイの社会問題はタイの社会構造にあり、つまり政府の政策のこと、階級社会、役人の賄賂などにある。
- (3) 日本人は、外国に住んでも集団生活・日本の生活の様式をもっていく。
- (4) 言葉の障害・大都会の生活思考・またはタイの社会に溶け込まないことが、日タイの交流の障害となる。
- (5) 日本の社会の弱点、例えば硬い人間関係・仕事第一主義の不満が表われた。
- (6) 在タイ日本人には、住宅・子どもの教育などの問題がある実態がわかってきた。
- (7) 夫婦関係は、日本に住んでもタイに住んでも構造的に変わらないことがわかった。
- (8) 日本から離れると、上流階級意識が芽生える傾向が明らかになっている。気を付けなければ、将来地元の人々に反発を呼ぶことになるかもしれない。
- (9) 日本から離れても、日本の自然・伝統・生活の様式に固執する。
- (10) 日本人がタイに働きに行くのは、単に経済上の理由からではなくて、心の触れ合いを求めるという理由がある。将来タイ政府が日本の幅広い協力を求めるならば、総合的な措置或いは政策が必要と思われる。

(京都精華大学教授)